

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「気をつけよう、甘い言葉と明るい未来」

★★

20年くらい前は、「気をつけよう、甘い言葉と暗い道」という防犯協会の注意書きが町の少し寂しい場所に掲示されていました。この注意書きに擬えて、私が投資家の皆様に自戒を込めてお伝えしたい標語は、「**気をつけよう、甘い言葉と明るい未来**」です。

日本の投資家は業者に奨められて、明るい未来を謳った株式や投資信託を購入することが多いと思います。しかし、大概の場合、ここ1~2年の間に設定されたアメリカの成長株中心の投資信託のように、煌びやかなハイテクの未来と、見事な右肩上がりの参考銘柄の株価チャートが満載された販売用資料が用意されている商品には注意が必要です。なぜなら、この手の商品は高値近辺で大量に設定される傾向があるからです。

よしんば、それらの商品がある程度値上がりしたとしても、直ぐに別の種類の明るい未来が眩しい商品に乗り換えを奨められます。そして、人が好む投資家はそのアドバイスに従い、売ったり買ったりを繰り返し、気が付くと明るい未来どころか暗い過去を積み重ねる結果になります。いくら投資は自己責任と言われても、投資家は不利ですね。

日本では、「貯蓄から投資へ」のシフトが順調に進んでいません。その原因に、「日本人は安全志向が強いから」とか「金融リテラシーが低いので」とか、色々指摘されています。しかし私は、株式や投資信託が本来あるべき長期の投資商品としてではなく、実際は短期の投機商品のような扱いで投資家に推奨されていたからだと思います。そのため、日本の殆どの善良な投資家は、今まで投資の醍醐味を十分に経験したことがないはずで、業者には、投資家の長期の資産形成に役立つなどという発想は殆どありません。

以下は、史上最も偉大な投資家と称されるウォーレン・バフェットの言葉です。

「歯医者のような別の分野の専門家だったら、素人を大いに助けてくれます。しかし、大抵の資産運用の専門家は、お金のために何も役に立ちません。」
(Full-time professionals in other fields, let's say dentists, brings a lot to the layman. But in aggregate, people get nothing for their money from professional money managers.)

また、アメリカの第16代大統領のエイブラハム・リンカーンはこうも述懐しています。

「大抵の人は自分が決めた分だけ幸せになれます。」 (Most folks are about as happy as they make up their minds to be.)

資産運用は自分で投資先や売買タイミングを決めないと、人任せでは成功しても達成感に繋がりません。ロボアドも含めてアドバイザーからの提案は参考程度が良いと思います。

金融機関から習う金融リテラシーよりも、アドバイザーが一様に唱える「長期」「分散」

「積立」の金科玉条よりも、古今東西の偉人の名言を投資の心得とし、自分で勉強することが人生をより豊かにしてくれる気がします。現在はそれが可能な時代です。